



左は1940年代にオールラウンドカウボーイとして活躍したロデオのチャンピオン、ビル・リンダーマン。かぶっているのはもちろんステットソン。競技の場や牧場だけでなく、替え上着にリボンタイをした服装の時にもカウボーイはカウボーイハットをかぶるのだから、単なる日よけといった実用目的以上の意味があったことになる。

ステットソン社のジョージ V. マッキノンという人物が1933年に取得した特許(US.Pat. No.1915063)。フェルトを細かな穴が開いているコーン型をした台にかぶせてかたちをつける。余分の毛は穴から吸い込むと同時に、縁になる部分をしっかりと仕上げることができるというものだった。



西部とカウボーイと彼らの帽子の結びつきは深い。単にステットソンといえば彼らがかぶる帽子のことだし、たとえステットソンのラベル付きでなくてもそう呼ばれるくらいだ。

「ステットソン物語」

STETSON

グレートブランド物語

Great Brand Story

Photo Courtesy of Funny Photo/Naganori Tsutsumi(WPP), WPP Collection

第35回:文と構成 / 河村喜代子

カウボーイがかぶる帽子といえは、真つ先にテングロンハットと口をつけて出でくる。正確にはどんなかたちをしていても、つばが広いのが特徴で高山の部分には、ひっくり返せばそこに水を入れることさえできる。馬に水を飲ませてやりたい時に適当な容れものがなければ、カウボーイたちは自分の帽子を脱いで水を入れることができる。実際、ステットソンでもそんな光景を描いた広告を過去に使っていた。



広野で働く者にとり水は欠かせない。それは馬も同じ。貴重な最後の水を分け合う。水筒から飲めない馬には自分の帽子を脱いでそれに入れて飲ます。

カウボーイが、自分がたいてつにしている帽子を水汲むために使ったとしても不思議はない。ただし10ガロン分の水を入れることができるからテングロンハットという名前がつけられるというのとは、前では呼ばれるというのとは、まったくの誤解だ。10ガロンという水の量がどれほどかを考えれば、俗説だとすぐわかる。1ガロンが3・85リットルとして1リットル入り牛乳パックなら約4本弱。いくら山が高い帽子だとしても牛乳パック約40本分の水はムリというものだ。ステットソンの古いカ

西部はアメリカにとつて伝説が生まれる場所。西部で働く男たちの頭の上にある帽子は、たとえステットソン製でなくてもそう呼ばれるほどカウボーイハットの代名詞になっている。

CATALOG No. 31 N. PORTER COMPANY PHOENIX, ARIZONA

The "Sonora" in Two Colors for Your Selection

Buckskin and the New Sudan Brown

\$10.50

No. 76012 THE STETSON "SONORA" HAT—A Buckskin color hat that will make you look like a million.

Stetson's No. 1 Quality, True Buckskin Color, 5 1/2", unlined crown, 4" flat, raw edge brim. Two cord band to match.

The hat which is bound to become the most popular of our range lands.

\$10.50

No. 76015 THE STETSON "SONORA" HAT—A SUDAN BROWN color hat that will make you the second million... a mate to the Buckskin Sonora. A new shade of Brown that is a knockout.

Stetson's No. 1 Quality, Sudan Brown, 5 1/2", unlined crown, 4" flat, raw edge brim. Two cord band to match.

STETSON HATS

They're "tops"... A reputation rightly earned, they're the most popular of all Western style hats made. They are noted throughout the West and in all parts of the world wherever hats are worn, for their fine quality, smart style, and for the wear you receive from them. When you consider the quality of a Stetson—the price is very low. We feel you will find your style shown in our catalog.

"San Fran"

No. 400

No. 1 Quality — \$10.00

No. 540 STETSON "SAN FRAN" HAT — A hat with plenty of style and one that is very popular throughout the range country. Made in No. 1 Quality, Beautiful Chocolate Brown in color, 6 1/2" unlined crown, 3 1/2" flat brim, three cord band and narrow banding on brim to match.

ORDER TODAY, YOU WON'T REGRET YOUR PURCHASE.

"El Vaquero"

No. 845

No. 1 Quality — \$11.00

No. 845 STETSON "EL VAQUERO" HAT — A beautiful hat that is one of the favorites of the West. Beautiful Chocolate Brown color, 6 1/2" full crown, 4" full rolled brim, 1 1/2" band and narrow banding on brim to match, unlined.

FIG. 2. TODAY—WE KNOW YOU WILL BE PLEASED.

"The Arizona"

No. 810

No. 1 Quality — \$11.00

No. 810 STETSON "WESTERN" HAT — The "Western" has been a favorite since we added it to our line of hats. One of the most popular hats we have ever shown.

Made in No. 1 Quality, BUCKSKIN color, 6 1/2" unlined crown, 4" flat brim, unlined, band and banding on brim to match.

The brim is rolled, but a narrow roll, and this hat is to the appearance. You may not like the manner in which this hat is shown in the illustration, but note by the insert that this hat is made of a material that is soft and is a hat that will look well with any type of outfit. A hat, yes, but so nicely proportioned that hundreds have selected it over all others.

Price, each \$11.00

T. C. SEARCH. Patented Mar. 23, 1888. FIG. 1. FIG. 2. FIG. 3. FIG. 4. FIG. 5. FIG. 6.



ジョン B. ステットソンは慈善活動を熱心に行い、地元フィラデルフィアにあるテンブル大だけでなくフロリダの大学にも寄付をしている。南部の大邸宅風の建物は彼の個人名に改名されたフロリダの元デラント大学。

1894年にステットソン社が申請した帽子のブリム、つばの部分にカーブを付ける器具に関する特許(US.Pat. No.579368)。せっかくつけたカーブが型から外す時に崩れてしまうという欠点を解消するためにふたつのカップで帽子を挟む方式にした。

Witnesses: Aaron C. Rockman, Fred Penner

Inventor: Theodore C. Search by his Attorneys



ジョン・バタートン・ステットソンは、帽子職人を父親にもって1830年にニュージャーシー州オレンジで生まれている。早くから父親の仕事を手伝うようになったという。勉強があまり得意ではなかったが理由らしい。帽子づくりを手伝ううちに、ステットソンは健康を害した。そこで彼は西部へ向かうことにした。両親が転地療養した方がいいと彼を送り出したという説もあるし、彼自身が生きているうちに西部を見る最後の機会になると考えたからという説もある。どちらにしても結核にかかった身体で西へ向かった。

1861年には当時、西への玄関口になっていたミズーリー州のセントジョセフに到着した。時代は南北戦争直前で、ちょうどその年に、ポニーエクスプレスがセントジョセフとサクラメントを早馬で結ぶ郵便事業を開

始している。まさに東と西がセントジョセフの町で背中合わせになっていた。物資と人が町に流れ込んで、そこからふたたび西へ出て行った。町全体がトレーディングポストの働きをしていた人が集まり建築ブームにわく町で、彼はレンガを焼く仕事に就いた。仕事は順調だったが、洪水ですべてを失う目にも遭った。その後、コロラドで起きたゴールドラッシュでは金を掘る仲間に加わった。西部での仕事はどれも成功はしなかったが、ゴールドダイガーたちのキャンパ暮らしのなかでヒントをつかんだ。野宿同然の彼らが使っていたテントは、動物の皮のまま

で雨に当たるとひどいにおいを発した。しかも濡れた皮はすぐに使い物にならなくなった。そこで父親から学んでいたフェルトでテントをつくることにした。できあがったものはテントと呼ばれた。せいぜいが大きな帽子だった。動物の毛を大量に集めることができなかったから。それでも頭の上のせたテントは、雨を防ぐことはできた。日射しもさえぎってくれた。頭にかぶって

「大平原のボス」を目指した帽子は顔を隠してしまうほどプリムが広くできている。しかもチンストラップなしに風におおられても帽子が吹き飛ばすことはめったにないフィット感なのだ。

ザンブレン」である。クラウンが高いのかぶついても暑くない。広いプリムは、カウボーイたちにとってシールドそのものだった。これは大げさではない。平原で馬の背にいる彼らは、厳しい日射しから逃れよう

がなかったからだ。砂を巻いて吹き付ける風にも、突然のヒョウが降ってきた。ステットソンの帽子をかぶってはいればしのげる。ウエスタンハットと呼ばれる帽子の誕生であった。その後、単にステットソンと呼ばれるようになるのは、他のどこにもない彼がつくった帽子だからだ。

カーブとクラウン部分に激しい動きをともなうカウボーイの仕事でも彼らがそれを崩すことはめったにない。プリムは、寒さだつて防げた。欲しいという者も現れて、彼は帽子づくりに戻ることを決めた。

フィラデルフィアに帰ったステットソンは、100ドルの左手で道具をそろえて、原料になる毛を買って帽子づくりにとりかかった。帽子のスタイルは、ほかの帽子メーカーがつくっているのと変わらなかった。いわゆる東部エスタブリッシュメントの世界で受け入れられるかたちである。それ以外のスタイルの帽子をつくりたくても、新しいスタイルを引き受けて売ってくれる帽子屋がなかったのだ。成功はおぼつかないどころか、新参者であるステットソンは商売が立ちゆかなくなる方が近かった。

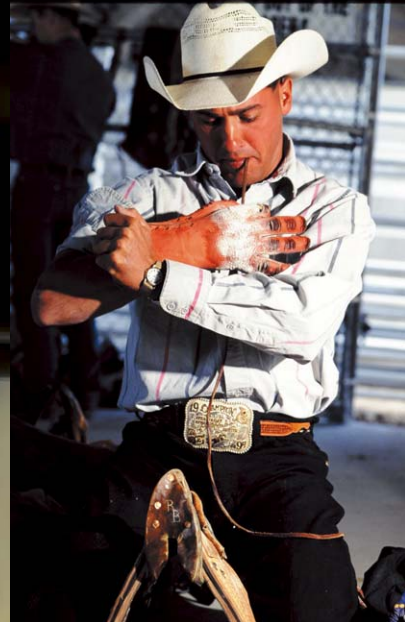
そこで彼は東部ではなく西部に目を向けた。自分がつくりたいものを

くるとい願うの方が強かったこともある。彼の大きな帽子を買ってくれた西部のキャトルマンたちを相手にしよう決めた。彼らの仕事は新しく彼らのライフスタイルも新しかった。すべてが進行中だから、新しいモノもスタイルも受け入れてもらえる可能性が広がっていた。そこから生まれ

「ボス・オブ・ザンブレン」に始まる。

「大平原のボス」を目指した帽子は顔を隠してしまうほどプリムが広くできている。しかもチンストラップなしに風におおられても帽子が吹き飛ばすことはめったにないフィット感なのだ。

「大平原のボス」を目指した帽子は顔を隠してしまうほどプリムが広くできている。しかもチンストラップなしに風におおられても帽子が吹き飛ばすことはめったにないフィット感なのだ。



ザンブレン」である。クラウンが高いのかぶついても暑くない。広いプリムは、カウボーイたちにとってシールドそのものだった。これは大げさではない。平原で馬の背にいる彼らは、厳しい日射しから逃れよう

ザンブレン」である。クラウンが高いのかぶついても暑くない。広いプリムは、カウボーイたちにとってシールドそのものだった。これは大げさではない。平原で馬の背にいる彼らは、厳しい日射しから逃れよう

「大平原のボス」を目指した帽子は顔を隠してしまうほどプリムが広くできている。しかもチンストラップなしに風におおられても帽子が吹き飛ばすことはめったにないフィット感なのだ。

ザンブレン」である。クラウンが高いのかぶついても暑くない。広いプリムは、カウボーイたちにとってシールドそのものだった。これは大げさではない。平原で馬の背にいる彼らは、厳しい日射しから逃れよう

ザンブレン」である。クラウンが高いのかぶついても暑くない。広いプリムは、カウボーイたちにとってシールドそのものだった。これは大げさではない。平原で馬の背にいる彼らは、厳しい日射しから逃れよう

ザンブレン」である。クラウンが高いのかぶついても暑くない。広いプリムは、カウボーイたちにとってシールドそのものだった。これは大げさではない。平原で馬の背にいる彼らは、厳しい日射しから逃れよう

ザンブレン」である。クラウンが高いのかぶついても暑くない。広いプリムは、カウボーイたちにとってシールドそのものだった。これは大げさではない。平原で馬の背にいる彼らは、厳しい日射しから逃れよう

ザンブレン」である。クラウンが高いのかぶついても暑くない。広いプリムは、カウボーイたちにとってシールドそのものだった。これは大げさではない。平原で馬の背にいる彼らは、厳しい日射しから逃れよう

ザンブレン」である。クラウンが高いのかぶついても暑くない。広いプリムは、カウボーイたちにとってシールドそのものだった。これは大げさではない。平原で馬の背にいる彼らは、厳しい日射しから逃れよう

ザンブレン」である。クラウンが高いのかぶついても暑くない。広いプリムは、カウボーイたちにとってシールドそのものだった。これは大げさではない。平原で馬の背にいる彼らは、厳しい日射しから逃れよう

ザンブレン」である。クラウンが高いのかぶついても暑くない。広いプリムは、カウボーイたちにとってシールドそのものだった。これは大げさではない。平原で馬の背にいる彼らは、厳しい日射しから逃れよう

ザンブレン」である。クラウンが高いのかぶついても暑くない。広いプリムは、カウボーイたちにとってシールドそのものだった。これは大げさではない。平原で馬の背にいる彼らは、厳しい日射しから逃れよう

ザンブレン」である。クラウンが高いのかぶついても暑くない。広いプリムは、カウボーイたちにとってシールドそのものだった。これは大げさではない。平原で馬の背にいる彼らは、厳しい日射しから逃れよう

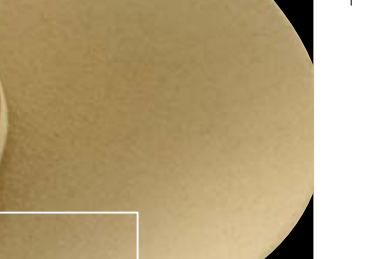
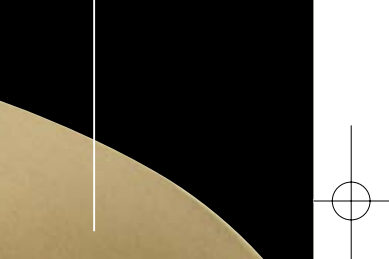
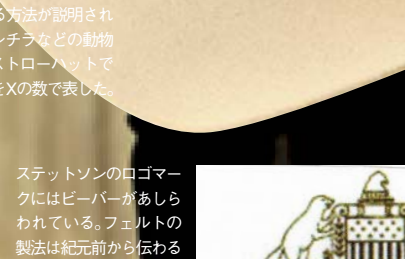
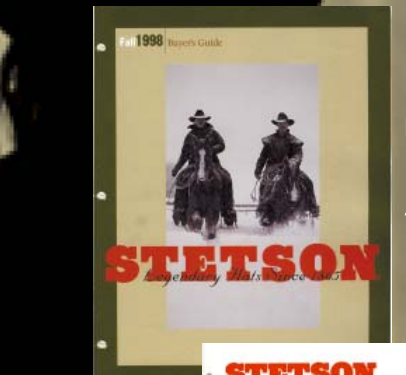
ザンブレン」である。クラウンが高いのかぶついても暑くない。広いプリムは、カウボーイたちにとってシールドそのものだった。これは大げさではない。平原で馬の背にいる彼らは、厳しい日射しから逃れよう

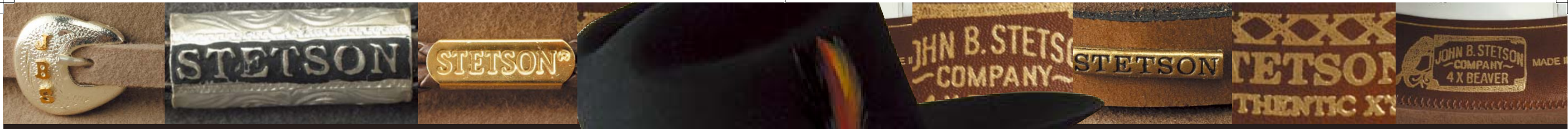
ザンブレン」である。クラウンが高いのかぶついても暑くない。広いプリムは、カウボーイたちにとってシールドそのものだった。これは大げさではない。平原で馬の背にいる彼らは、厳しい日射しから逃れよう

ザンブレン」である。クラウンが高いのかぶついても暑くない。広いプリムは、カウボーイたちにとってシールドそのものだった。これは大げさではない。平原で馬の背にいる彼らは、厳しい日射しから逃れよう

ザンブレン」である。クラウンが高いのかぶついても暑くない。広いプリムは、カウボーイたちにとってシールドそのものだった。これは大げさではない。平原で馬の背にいる彼らは、厳しい日射しから逃れよう

ザンブレン」である。クラウンが高いのかぶついても暑くない。広いプリムは、カウボーイたちにとってシールドそのものだった。これは大げさではない。平原で馬の背にいる彼らは、厳しい日射しから逃れよう





ハットバンドにはきわめてシンプルにSTETSONの文字があらわされている。派手好きのカウボーイファッションのなかで逆に目を引く。



ANGUS.色 GRANITE GR.グレード 4X.プリムサイズ 4インチ。価格2万9000円



DEMING.色 ACRON.グレード 4X.プリムサイズ 4インチ。価格2万9000円



BIG-4.色 MINK.グレード 4X。価格2万3000円
AMERICAN BUFFALO COLLECTION



RANCHER.色 BLACK.グレード 4X.プリムサイズ 4インチ。価格2万8000円



RANCHER.色 SILVERBELL.グレード 4X.プリムサイズ 4インチ。価格2万9000円



CARRAL.色 SILVER SAND.グレード 4X.プリムサイズ 4インチ。価格1万9800円
AMERICAN BUFFALO COLLECTION



SHERIDAN.色 BLACK.グレード 4X。価格1万9500円
AMERICAN BUFFALO COLLECTION



SEMINOLE.色 MINK.グレード 4X.プリムサイズ 4インチ。価格2万6000円



最後の一滴の水を馬と分け合うカウボーイを描いた帽子のライニング。実際に帽子で水を汲むことは可能だし、映画などでは人間の方は帽子のプリムで水をすくって飲んでいるシーンがよくある。またスエットバンド部分はシンプルながら帽子がずれたりせずに安定してかぶっている役目を果たしている。リボンが付いている方を後ろにしてかぶる。

STETSON

Collection

Made in USA

ステットソンがクラウン部分を高くしたのは、通気性を持たせるためだし、プリムが広いのは直射日光をさえぎり、首や顔を守るためだった。現在、ステットソン社は創業の地フィラデルフィアからテキサスのガールランドに移って久しい。モノづくりするアメリカの現場は大きく変わった。1865年以降、150年近い時間が流れるなかで、ステットソンの帽子は100を越えるモデルが生まれきたが、基本は変わらない。西部の大地に照りつける太陽と、その下で働く人たちがいる限りこれからもそれは変わらないだろう。機能で必要とされた帽子は、単なるユーティリティ以上のものを備えていたからこそ100年を越える道具としてつづいてきた。



JBS HERITAGE.色 SILVERBELL.グレード 4X.プリムサイズ 4インチ。価格2万9800円



CARSON.色 ACRON.グレード 4X.プリムサイズ 3 1/2インチ。価格2万6000円

©FUNNY 阪急百貨店メンズ館 大阪市角田町8-7 阪急百貨店メンズ館 4F ☎06-6316-1375